

情報共有

(1枚非管理メモ)

N239班 ← フラッシュスクリーン

プラント状況（本店レク）議事メモ

暫定版

東京電力株式会社

12/12 13:40' N239班

取扱注意、公開不可

日時：平成 23 年 12 月 12 日（月）11:00～11:20

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 12 名（カメラ 3 台）

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：なし

よりプラント状況に関して説明。

質疑：

Q. 蒸発濃縮装置入り口（⑧）の放射能濃度が高い理由は。

A. セシウム吸着塔を出た水は淡水化装置（RO）に入り、RO処理水（⑦）と濃縮塩水（⑧）に分かれるが、その濃縮塩水が蒸発濃縮装置の入り口側の水になるためである。なお、濃縮塩水（⑧）は蒸発濃縮装置を通ることで、蒸発濃縮処理水（⑨）と濃縮廃液（⑩）に分けられ、原子炉への注水はRO処理水（⑦）と蒸発濃縮処理水（⑨）が用いられる。

Q. 原子炉への注水量を増加させている理由は。

A. 11 月下旬に圧力容器内に水素ガスが滞留していることがわかつたため、圧力容器内の水素排出を目的とした水蒸気を発生させるために原子炉への注水量を減少させていた。それに伴い、原子炉の温度が上昇傾向に転じていたが、圧力容器に直接窒素を封入できるようになり、順調に稼働しているため、原子炉への注水量を増やし温度を低下させることとしたもの。

Q. 原子炉建屋地下滞留水の放射能濃度測定結果について、2号機の値が高いのはなぜか。

A. 各号機の Cs-137 の放射能濃度は、1号機が 1.9×10^5 、2号機が 2.5×10^5 、3号機が 1.8×10^5 である。滞留水全体の値ではないため、サンプリング箇所によって数値には多少の開きはある。1号機の滞留水については 5 月に測定しているが、その時よりも 1 衍のオーダーで低下しているので、炉注水による希釈ができていると思われる。2号機、3号機の原子炉建屋地下滞留水は 5 月に測定していないが、おそらく 1 号機と同程度の値であったと考えている。

Q. 1号機の原子炉建屋滞留水の濃度が 1 衍のオーダーで低下しているとのことだが、炉注水による希釈効果は期待できるのか。

A. 原子炉建屋内の滞留水については淡水が注水されることで希釈できているものと思われる。循環注水冷却により原子炉そのものが冷却されているので、燃料からの放射性物質の溶出濃度についても低下できていると考えている。

以上